

創立三十周年記念誌

救護施設 名友園



社会福祉法人 久比岐福社会



運動会の様子（昭和62年）



忘年会で鍋を囲んで（平成19年）

目次

これからの名立園	社会福祉法人 久比岐福祉会 理事長	橋本 南夫	2
祝辞	新潟県福祉保健部長	若月 道秀	3
名立園創立30周年にあたって	上越市長	村山 秀幸	4
名立園創立30周年記念にあたり	上越市議会議員（旧名立町長）	塚田 隆敏	5
さらなる名立園の充実を祈って	高田西城病院院長・名立園嘱託医	川室 優	6
祝辞	前名立園園長	金子 栄一	6
創立30周年を迎えて	理事長職務代理	山本 隆	7
創立30周年にあたって	理事長職務代理	伊藤 正義	7
多くの方々に支えられて	名立園園長	竹内 隆	8
お祝いの言葉	家族会会長	河内 保	9
利用者代表のこぼ			10
名立園職員のことば			11

■写真でつづる名立園の30年

開園（昭和55年度）～昭和57年度	24
昭和57年度～昭和59年度	25
昭和61年度～平成2年度	26
平成3年度～平成7年度	27
平成8年度～平成11年度	28
平成12年度～平成17年度	29

■近年の動向

平成18年度	30
平成19年度	32
平成20年度	34
平成21年度	36
平成22年度	38

■そして名立園は今

週間予定表	40
作業活動	41
クラブ活動	42
ボランティア	43
保健	44
給食	45

■資料

救護施設名立園沿革	46
役員及び運営委員名簿	48
職員名簿	48

■編集後記



これからの名立園

社会福祉法人 久比岐福祉会 理事長 橋本 南夫

周囲には山・川・海を擁し、極めて恵まれた自然環境と、心温かい地元の人々は勿論、関係諸官庁、上越地域の多くの人々、又ボランティアの皆様、家族の皆様の温かい心の籠った、ご指導、ご支援、ご理解のうえに開園30周年を迎えることが出来たことを、心から厚く御礼申し上げます。

諸先輩が、30年をかけ心身に障害を有するも、自由と平等は保障され、かつ充実した生活を送る権利を有しながら家族から離れ生活している利用者一人ひとりに、生きる喜び、活力を芽生えさせ、地域社会の一員としての自覚を与え、また一人ひとりの力の範囲での社会参加への実績等の積み重ねが、地域の多くの皆様の温かいご理解と快い受け入れに繋がった大きな要因と考えております。

開園から30年の長き間には、利用者百余名の大家族ということもあり、しばし人間関係の諸問題等も発生するなど、紆余曲折の繰り返しが思い偲ばれ、その苦勞と努力は計り知れないものと思われまます。

福祉の重要性は年々強調されており、一端を担う名立園も心に重く受け止め、より一層の情熱と誇りを持ってさらなる飛躍を目指してまいります。

現名立園は、一層の高齢化・重度化、ニーズの複雑化・多様化が進行中であり問題は増加傾向にあります。沈着冷静な判断のもと一歩一歩進みたいと考えております。高齢化・重度化に対しまして名立園独自策として、理学療法士・運動指導員の指導を受け、ニーズの複雑化・多様化に対しては福祉事務所等との連絡の強化・情報収集を図っているところです。

最後に「安心・安全な温かい家庭の温もりのある名立園」を目指し、現在、耐震設計中で設計完了次第、新潟県への補助申請のうえ耐震補強工事（平成23年度）の実施を目指し進行中です。

30年を契機に、名立園は「新しい一歩高い福祉」を目指して役職員一体になって進みたいと考えております。

何卒、益々のご指導・ご支援・ご協力をお願い申し上げます。



祝 辞

新潟県福祉保健部長 若月 道秀

「名立園」の創立30周年に際し、一言お祝いを申し上げます。

「名立園」は昭和55年4月に県内で4番目の救護施設として開設されて以来、上越地域における唯一の救護施設として、障害を持つ利用者の生活支援に大きな役割を果たしてこられました。

この度、めでたく30周年を迎えられましたことは施設関係者並びに地域の皆様のこれまでのたゆまぬご努力とご支援の賜物であり、心から敬意を表します。

「名立園」では、開園当初から「あたたかい家庭のぬくもりのある施設づくり」をモットーに施設長をはじめ職員の皆さんが一丸となって日夜、利用者への支援に取り組んでこられました。近年は利用者の高齢化、障害の重度化が進んでいく中で利用者の身体機能の低下を来さないよう各種リハビリや訓練にも努めておられます。

救護施設は、昭和25年の生活保護法の改正により制度化された社会福祉施設の中でも最も歴史のある施設のひとつであり、あらゆる障害や生活上の困難のある方に対し、生活の場を保障するという基本的な役割を持っております。

これに加えて、近年、新しい役割として、社会問題ともなっているアルコール依存症患者やいわゆるホームレスの方、また刑務所を出所した障害者等への対応も求められており、救護施設への期待は大きいものがあります。

県といたしましては、平成18年度に「健康福祉ビジョン」を策定し、県民だれもがいきいきと元気に、心豊かに安心して暮らせる地域社会の実現を目指して、各種施策に取り組んできております。救護施設についても関係機関や地域の皆様と連携しながら支援してまいりたいと考えておりますので、一層のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

施設長をはじめ、関係者の皆様方におかれましては、開園以来の名立園の伝統を継承しつつ、新たな課題についても一丸となって取り組んでいただくよう、御期待申し上げます。

終わりに、名立園の益々の御発展と関係者の皆様の御健勝を祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。



名立園創立30周年にあたって

上越市長 村山 秀 幸

名立園創立30周年おめでとうございます。

名立園は、身体や精神に著しい障害があるために独立して日常生活を営むことのできない方が、個人の尊厳を保ちつつ、自立した生活が営めるよう支援する救護施設として、長きにわたり地域福祉の推進に大きく貢献されてこられました。このたびの30周年という節目にあたり、改めて心から感謝と敬意を表します。

ご案内のとおり、救護施設は生活保護法に基づく施設であり、あらゆる障害や生活上の困難のある方を受け入れてこられました。障害福祉制度を始め、福祉制度が大きく変化するとともに、昨今の経済不況の中、生活保護制度は国民最後のセーフティネットとして関心が高くなっており、救護施設も障害を問わず生活上に困難を抱える方々が、安心して暮らせる施設として大きな役割を果たしています。

こうした中、名立園は昭和55年の開設から30年が経過し、利用者の皆様の高齢化や障害の重度、重複化が顕著となっており、歩行や食事、入浴、排せつなどの日常生活において介助を必要とする方が増加しております。

このような状況の中で、利用者の方々と信頼関係を維持しつつ、安全・安心に配慮した質の高い福祉サービスを提供しておられることは、昼夜を問わず勤める職員の皆様のご努力とともに、地域の方々のご協力と献身的なボランティアの皆様のご尽力の賜物であり、重ねて敬意を表する次第であります。

とりわけ、名立園で開催されている地域懇談会では、多くの利用者のご家族の皆様から「いつまでも名立園で暮らしたい」との声が寄せられているとお聞きしております。まさに、開設当初からの理念である「あったかい家庭のぬくもりのある施設」づくりを実践し、継承してこられたご努力が結実したものであり、これからも利用者の皆様が健康で安心して快適な生活を送ることができる施設として、引き続き、関係者の皆様のご尽力をお願い申し上げます。

市といたしましても、障害のある方へのサービス基盤の整備や支援を一層推進するとともに、今後も、市民の皆様様の様々な思いや願いを受け止め、本当のニーズや声なき声にも思いを馳せ、寄り添うことのできる「温かい行政」を基本に、健康で安心して暮らすことのできる「すこやかなまちづくり」を進めてまいりますので、皆様方の更なるご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、名立園におかれましては、今後とも利用者の立場に立ったサービス提供の充実に努められ、全国でもトップクラスの救護施設としての歩みを進められますようご期待申し上げますとともに、社会福祉法人久比岐福祉会並びに関係者の皆様方のますますのご発展、ご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



名立園創立30周年記念にあたり

上越市議会議員（旧名立町長）塚田 隆 敏

昭和55年4月に（定員100人）開園し、あっという間に30年の歳月が流れ、その間スプリンクラーの安全施設、全室冷暖房の居住環境施設の整備がなされ、大規模修繕、拡張工事、園の付帯設備が整備され（現在員108人）今日に至っています。身体上または精神上著しい障害のため日常生活を送ることが困難な人が自立した生活が営めるようにとの目的により上越地方市町村連絡協議会で旧名立町に設立されました。

設立以来社会福祉法人久比岐福祉会の理事の皆様、そして園長はじめ職員の皆様の多大な献身的な働きにより大きな事故も無く運営されましたことに感謝申し上げます。さらに生徒によるボランティア活動、一般人のボランティア、機材等の寄付、地域住民による災害時の救援と訓練活動による園生の安心感、国県市の時代に合ったニーズに対応していただいたことによるものであります。

常人は園生を気の毒な人と決め付ける人が多いかもしれませんが。しかし入所されている方々は大勢の人達の協力により立派に自立され、人生を謳歌されていると思います。その証拠が職員との協力による園生のボランティアでの環境美化運動における地域模範活動団体として新潟県知事より表彰され、海岸愛護団体として社団法人全国海岸協会から表彰され、奉仕活動により、名立町町村合併40周年記念式典で表彰されており、更に名立駅伝競走大会に出場、宝田小学校、名立中学校の卒業式には胸に飾るコサージュを製作されました。卒業記念アルバムを開く度に思い出すことでしょうか。

4月の開園記念祭に始まり翌年の3月物故者法要まで年間を通して毎月行事があり、環境美化等合わせて8つの作業を行い6つのクラブ活動で人生を楽しんでおられるのでしょうか。

身体上、精神上の問題を抱えている人は少なくありません。入所を待つ人の多さから判ります。個々の家庭で対応が出来なくなっています。お互いの幸せのため施設の充実が欠かせません。そのような子を持つ親には大きな安心に繋がり子供にとっても親が時々面会することで気兼ねなく過ごせる、このような状況をつくるのが私達の役目ではないでしょうか。

施設には自由が無いと言う人もいます。本当でしょうか。施設以外では自由があるのでしょ。私は間違っていると思います。自由と自由がぶつかり合ったら個々では喧嘩になり、国と国では戦争です。そこにはルールが必要です。どのような社会でも制約があって成り立っています。そのルールを創るのが救護施設名立園です。時代に即した明るく楽しい園となるような気配り、目配り、心配りを胸に秘め今後とも名立園の発展にご尽力いただきますようお願い申し上げます30周年のお祝いといたします。



さらなる名立園の充実を祈って

高田西城病院院長・名立園嘱託医 川室 優

30年前、名立の地に、行政はじめご家族と当事者の方々、医療の関係者など多くの皆様のお力が結集して、知的障がい者や弱者のための救護施設が開設できましたことは、関係者にとりまして、まさに福音ともいえる至上の賜物だったことでしょう。私どもが、嘱託医として開設時より関わらせていただき、今日に至るまで継続できましたことも、誠に感謝に堪えません。ここに関係者の皆様と共に、記念すべき30周年を慶びお祝い申し上げたいと存じます。

開設時は、亡き田村知副院長が、週1回訪問診察をいたしまして、入所者の方々の健康管理をしておりましたが、その後は、私をはじめ当院の医局の先生方が訪問いたしております。入所者の抱えている障がいの状況は、知的障がい、

てんかん、難病疾患、慢性的な精神障がいなどさまざまであり、開設時は平均年齢も40代でしたが、現在は高齢化時代を迎えております。そのため、高齢者対策が必要になってきており、職員の方々の温かいきめ細かいケアのみでは、その対応にどうしても限界があるように思われます。自然環境に恵まれ、日々の日常生活を送るには良い療養環境ですが、素早い高齢者対策も今後の大きな課題といえるでしょう。こうした現状を踏まえて、これからも、名立園の関係者の皆様と共に、ご支援ご協力申し上げたいと思います。

最後に、名立園が更により良い施設として、発展向上なさいますことをお祈り申し上げます。



祝 辞

前名立園園長 金子 栄一

「名立園創立30周年」、本当におめでとうございます。私自身、名立園開設時から指導員として勤めさせて頂き、多くの利用者さんと職員と一緒に28年間という長期間、共に生活できたことを有難く思うと同時に感謝の気持ちで一杯です。

自身、望んで勤めた仕事でもあり、毎日楽しく勤めさせてもらいましたが、同じ一つ屋根の下、百人を越す大家族の住まいの場として、作業したり活動の場であると同時に家族の団らんの間でもあったと思います。

楽しいことや悲しいことも日々沢山あって、色々な行事や作業に取り組んだことは楽しい思い出ですが、開設後の年数が経つにつれて利用者も年を取り、色々な病気に患い、そして亡く

なった利用者も数多く、その一人ひとりの死が悲しく思い出されます。特に、家族に遺骨を引き取ってもらえなかった利用者の運命があまりに不憫で、本人の生前の遺徳を偲ぶ形で、名立園の敷地内に供養塔を建てることのできたことは、私にとっては自身に誇れる一番の大仕事だったと思っております。

名立園は人生のセーフティネットとしての救護施設として、社会福祉には欠かせない大切な施設です。建物は段々古くなっていきますが、30周年を契機として利用者・職員共に気持ちも新たに、力を合わせてより良き進歩をめざし発展してほしいと願います。その為にも保護者の皆様、地域の皆様、関係機関の皆様のご協力を何卒お願い申し上げます。



創立30周年を迎えて

理事長職務代理 山本 隆

昭和55年4月、上越地方の福祉団体等の関係者並びに地域の皆さんの熱意とご協力の下に「救護施設名立園」は開園されました。開園当初は立ち上げの苦悩、時代とともに施設・設備の老朽化、利用者の高齢化の問題など、数々の課題に対処されてきた歴代の理事長・園長のご苦勞に敬意を表します。また、地域の協力や職員の方々の日々の努力の積み重ねがあって、今日の園の姿があると思います。

今後も園の目標である「あったかい家庭のぬくもりのある施設」を念頭において、より充実した施設づくりを目指して努力していく必要があります。

今後の主な課題と対策についてですが、第一は高齢化・重度化対策です。利用者の平均年齢は63歳を超え、重度化も進行しています。今以上の機能低下をきたさないよう機能訓練など

の充実を図り、要介護状態の予防に努めていく必要があります。

第二は、安心・安全の施設運営対策です。食の安全面では、衛生管理を徹底し、食中毒の予防に努め、また、感染症対策にも万全を期していかなくてはなりません。利用者が事故を起こさない対策も、重大事故につながらないように引き続き事故防止に取り組んでいくことが大事です。

第三は、施設・設備の老朽化対策です。平成18年度に大規模修繕工事が完了し安堵していたところ、耐震補強の問題が浮上しました。耐震診断の結果、管理棟と体育館の一部が強度不足で、補強工事が必要と分かりました。工事計画としては、22年度実施設計、23年度本工事の目処が立ちほっとしています。

今後も理事の一員として名立園のために微力を尽くしてまいりたいと考えています。



創立30周年にあたって

理事長職務代理 伊藤 正義

地域住民に支えられここに創立30年を迎える名立園、設立以来今日に至るまで地域の皆様方をはじめ、各関係機関のご指導、ご理解をいただき、節目の年を迎えることに感謝申し上げます。

当施設は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重し、総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができることを目的としています。

開園以来30年という歳月で、利用者の高齢化が進み開設時の様相とは変わってきています。

近年福祉の重要性が叫ばれている折、当施設も利用者が人としての尊厳をもとに、介護者の

もとで楽しく日常生活が出来る環境整備を一層すすめていく事が急務です。又施設面においては建物構造の耐震診断をした結果二ヶ所の構造物が基準に適合していないとの診断が下され施設の安心・安全性をはかるため行政庁の指導のもとに補強工事に着手をしております。

今後名立園の果たす役割は、障害を持っている利用者が、心身ともに安定した生活ができる施設でなければなりません。

最後に地域の皆様方をはじめ、ボランティア活動に協力頂いている方々、家族会の皆様には今後とも、一層のご理解ご協力を切にお願い申し上げます。

伊藤正義理事長職務代理は本誌寄稿後9月18日に急逝されました。謹んでご冥福をお祈り致します。



多くの方々に支えられて

名立園園長 竹内 隆

昭和55年4月、柏崎市のかしわ荘から27名の利用者を迎え入れて本格的に業務をスタートした「救護施設 名立園」以来30年この間新潟県、地元上越市そして糸魚川市、妙高市、十日町市、他関係する諸機関、諸団体、多くのボランティア、そして所在地であります名立区の皆様には長きに渡り変わらぬ温かいご支援、お力添えをいただいておりますことに改めまして深い感謝とお礼を申し上げます。

現在名立園は上越地域三市と十日町市より108名の皆様が入所され、共に生活を送っています。開園以来「あったかい家庭のぬくもりのある施設」を伝統として、利用者が我が家に居る如く安心して、生き生きとその人らしい生活が送れるようにを柱に据えて支援を行って参りました。そしてその良き伝統を支えてくれたのは開園とほぼ時を同じくして組織された家族会です。家族会には利用者は勿論、施設に対しても全面的なご支援を頂いているところです。家族と離れて施設で生活する利用者にとって真の心の支えとなっております。然しながら昨今、親から兄弟姉妹へそして兄弟から甥や姪へと世代は変わりつつあり利用者を取り巻く環境は年を追うごとに変化しています。その上利用者自身の高齢化、重度化とも相俟って故郷が次第に遠のきつつあるのも現実です。開園以来、家族との関係は良好に保たれ現在に至りましたが、ここにも名立園が歩んだ30年という長き時の流れの一端が垣間見えます。

さて、「名立園は成人の施設であり健康で働く事こそが生きることの実感に繋がる」これは初代の園長が掲げたものです。その方針の具現化に向けて昭和57年に作業棟が建設され、そして30年を経た今でもその理念は脈々と受け継がれ利用者の高齢化により先細り感こそあるものの現在も「働く場所」として有効に機能し、精神面での自立を促し、更には施設内自立の糧となっているものと確信しています。そして、発展的に労働を通じて地域の活動等への参加や社会貢献に繋げていければと考えます。

これからは時代と共に救護施設に求められる社会的ニーズは益々複雑かつ多様化していくと思われれます。上越地域唯一の生活保護施設として関係機関との連携を深め、これまで果たして来たセーフティーネットの機能は維持しつつ個別支援計画の充実を図り、利用者が高齢化する中、健やかな老いを支えて、安全には万全を期し、何よりも利用者のご家族、地域の理解と信頼を得ることこそ名立園が担うべき使命であると考えています。

そして今後10年、20年と繋いでいくために時代の求めに応じた、利用者本位の質の高いサービスの提供を役職員一体となり実現していきたいと考えております。

何卒変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



お祝いの言葉

家族会会長 河内 保

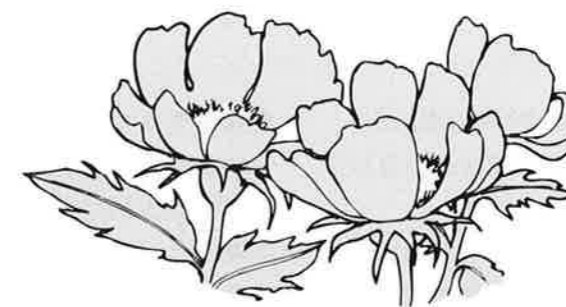
名立園創立30周年、おめでとうございます。

開園時に入所した姉も今は82歳となりました。名立園の入所者の方たちも今では高齢化となり、機能低下予防の為にハビリなどの強化を図っているとお聞きしています。又、入所者に合う作業訓練を通し社会参加をしているともお聞きしています。

近年、障害弱者に対し、社会の考えと対応が大きく変わってきていると感じています。今では障害者も社会の一員として温かく見守って頂いていることに対し、感謝の気持ちでいっぱいです。

又、名立園入所者の高齢化と共に、保護者の高齢化も進み園の行事などの参加協力も思うに任せぬことも心配されます。しかし、この創立30周年という節目に家族会が園と協力し、入所者のためにできる限りの事をしなければならぬと、決意をあらたにしています。

名立園を訪問すると、入所者が園長さんや職員の方々を信頼している姿を窺うことが出来ます。又、30年間大きな事故も無く楽しく過ごせたことも名立園理事様、歴代名立園園長様始め職員の方々の大きな努力と熱意のお陰と感謝しています。「本当に有難うございました。」最後になりますが、職員皆様のご健康とご多幸、名立園の発展をお祈り申し上げます。



楽しい毎日

自治会会長 石田昇二

今年度から自治会会長をしています。頑張ります。

平成10年に名立園に入所し、5年程前からコモを始めているけど、楽しくて毎日の張り合いになっています。毎食後の食堂掃除や喫煙所の掃除等、毎日大変だけど、これからも頑張ります。

名立園に来てから、新潟や佐渡旅行にも行ったし、楽しかったです。今年も一泊旅行を楽しみにしています。(談)



30周年おめでとう

自治会副会長 南雲松夫

30周年おめでとうございます。

私は平成15年11月7日に松之山町から来ました。その年は雪が多く、「故郷はさぞ多くの雪が積もったことだろう」と思ったものです。郷里を離れ、周りに知らない人達ばかりの施設生活に不安を抱き、戸惑うことも多かったです。

来年私は還暦を迎えます。園生活にも慣れ、現在はコモ、園芸、農作業に携わり、自分の生きがいを見つけることが出来るようになりました。また、旅行をはじめ色々な行事が楽しみに

なっています。

自治会副会長として、自治会活動を通して利用者同士が絆を深め、皆が仲良く健康で楽しい毎日を送ることが出来ることを願っています。(談)

名立園で生活して

前自治会会長 岡田一男

私は昭和58年8月に名立園に入所しました。名立園に来て悪いこともあったけど、良いことも沢山ありました。

陸上クラブに入って毎日練習しました。スペシャルオリンピックで東京に何回も行ったのは楽しい思い出です。毎年地元の大会に沢山参加し、走ることが生活の張り合いでした。

それから、自治会会長として、17年間みんなを引っ張ってきました。他にコモや畑作業も頑張ってきました。名立園に来てから、母親・兄・

義姉が逝ってしまい寂しくなったけど、何もしないとおかしくなるので、今出来ることを頑張っています。

歳をとって上手いかなかったり、困ったりすることが出てきているので職員に相談に乗ってもらっています。これからも、体に気をつけて名立園で生活したいと思っています。(談)

祝 創立30周年

業務課長 町田輝人

名立園創立30周年おめでとうございます。開園にいたるまでの関係者皆様のご尽力に深く感謝申し上げますとともに、私も名立園に就職し、今日まで30年間勤めておりますことに感謝をいたします。

救護施設は物を生産する職場、利益を目指す会社とは少し違い、人対人の職場です。初めは戸惑いもありましたが、楽しかったこと思い出されるのは創立20周年記念旅行で利用者、家族、法人役員・運営委員及び職員と一緒に石川

県の粟津温泉に行き一体感を感じたことです。救護施設は困っている人の最後のセーフティネットといわれています。この30年間、基本的な部分は変わっていないと思います。多くの善意と、大きな何かに支えられているものであり、本当にありがたいことだと思います。

名立園はこれまでの実績を基に、今後も利用者の期待に応えられるように活動し40周年、50周年へと進むことを祈念いたします。

30年を振り返って

支援課長 高橋行雄

時の経つのは早いもので名立園に勤務させていただくようになって30年を迎えることができました。開園当初、救護施設とはどんな施設なのか、知識もなく戸惑うばかりで、無我夢中で日々を過ごしていたことを記憶しています。生活保護法による施設は、多種多様な障害を持った方が利用されているわけですが、職員は慣れないうえ勉強不足ということもあり、対応のまですさなか無断外出も度々ありました、今思えば懐かしい思い出となっています。また、今日

無事に30年を迎えることができたことも、地域の皆様方の深いご理解とご協力があったからこそと改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

「福祉は人なり」という言葉がありますが、30年たった今、改めてそのことの重要性を痛感しております。これからも、利用者の安全・安心はもとより、快適な生活が継続できるよう努めて参りたいと思います。

仲間たちと30年

支援課長補佐 笹川いく子

昭和55年の開園と同時に勤務して30年が経ちました。嫁いだ名立には友人がいなかったので職場の仲間と利用者が一度に増え仕事に行くのが何よりも嬉しく楽しい日々でした。開園当初は特に決まった日課もなく一つひとつ積み上げていく過程を全員で楽しんでいました。雪が積もればソリに乗り、桜が咲けば家から持ち寄った提灯の明かりで夜空いっぱいの桜の花たち、盆踊りの輪に子供達の浴衣姿がありました。運動会は小学校や中学校のグラウンド、農繁期

には稲刈りの手伝いなど閉鎖的にならないように地域へ積極的に出て行くよう心掛けました。しかし、30年の月日は否応なしに心身に変化をもたらした支援の手を多く必要としてきました。限られた職員数で安全に安心して生活をしていただく事が第一の支援目標になってきました。マンネリ化せず楽しみを持って生活をしていただけるよう工夫や改善はもとより利用者の立場に立って考えられる職員で在りたいと思う毎日です。

みんなの笑顔に支えられて

会計係長 三浦 静子

昭和55年の名立園開設以来30年が経過し、私のこれまでの人生のほぼ半分を名立園でお世話になったわけで、とても感慨深いものがあります。

開園当初は慣れぬ仕事で大変でしたが、月曜日の朝、玄関で「来なかったね、待ってよ〜」の利用者さんの声に励まされるなど、名立園での生活を通じていろいろなことを学ばせてもらったと思っています。

この間、社会福祉を取り囲む環境も大きく変

わり、名立園でも経営効率化の視点が重要になってきましたが、「福祉は人なり」と言われるように人とのつながりも大切にしてきました。これまでお迎えした多くのボランティアや地域の皆さんからの温かい支えに感謝しています。

そして今、名立園の今後を次代に託すこととなりますが、名立園が地域とともに歩んでいくのを近くで見ながら、これからも少しでもお手伝いしていけたらと思っています。

30年を振り返って

支援相談係長 小林 清吾

昭和55年に名立園が開園し、私はその頃地元の中学生で、開園当時の園の様子もうっすら記憶しています。その後縁があり、平成元年に名立園に就職、現在にいたりました。平成の歴史は私にとっては名立園での歴史であり、利用者の皆様から様々なことを教えていただきました。この原稿を書くにあたり、10周年、20周年、25周年の記念誌を見ながら振り返り、当然のことながら、表紙の集合写真の利用者の顔触れが変わったことを痛感し、共に汗を流し、

共に笑い、時には共に涙を流したことを思い出します。

30年前とは名立園周辺も大きく変わり、社会情勢の変化と共に介護保険制度、自立支援等福祉の環境や制度も様変わりしました。その中で、救護施設は生活保護制度において最後の拠り所のセーフティネットとしての基本的役割は変わっていません。今後も利用者の為に、利用者の立場に立った支援をしていけるように、日々精進し、仕事に取り組んでいきたいと思っています。

かんごっちゃん

看護係長 船木 文子

私は30年間、利用者の方々からずっと同じ呼び方をされています。

「かんご「看護」っちゃん」と……。この呼び方は、当然職種柄での事と思っていました。しかし、最近になり、ちょっと違っていると感じてきました。「かんごっちゃん、おはよう」とそばに寄ってきたり、遠くから合図してくれたりします。体調が悪い時お世話した事、一緒に病院を受診した事、痛い注射や治療をした事、気持ち不安定な時に話をした事等、私には医

療を通して利用者それぞれにいろいろな思い出があり、つながりがあります。元気になれば私の存在は忘れられてしまうと思っていたのですが、現実は大きな絆として残っており、お互いの信頼関係ができたように思います。看護師としてこれからも利用者みんなが健康で充実した毎日を送ることができるよう、そして医療、生活全般の手助けができるよう、努力していきたいと思っています。

たくさんの出会いと別れ

主任看護師 神村 雪子

名立園創立30周年おめでとうございます。一言で30年といえどもそこで生活された利用者にとっては、人生の青春時代から過ごされた方・壮年期から過ごされた方・更には晩年を過ごされた方と様々です。人生の中での30年という期間は大変長いと思います。ここで過ごされた方やこれからも過ごされる方たちにとって、「いいところで生活できて良かった」と思ってもらえる施設でしょうか。利用者の皆様はもちろんのこと、その御家族の皆様にも良かったと思っ

て頂けるような施設にしていきたいと職員一同、日々努力しています。

家庭的な雰囲気を大切に、親であり兄妹であり、時には恋人であり続け、今後も利用者の皆様の健康を守って行きたいと更に、決意を新たに致しました。



元氣玉

主任支援相談員 猪俣 貴弘

平成10年6月1日、私の名立園初出勤。とても緊張した面持ちで施設の玄関に向かうと、「おはようございます！」と利用者さんから元気いっぱい、笑顔いっぱいの挨拶。そのおかげでこちらも自然と笑顔で挨拶ができたことを思い出します。あれからもう12年が過ぎようとしています。今現在も利用者さんからの元気いっぱいの挨拶は変わりません、私はその元気な挨拶から毎日たくさんの元氣玉をいただいております。その元氣玉に応えるためにも、今後もよ

り一層、「利用者さんが安心して生活できる施設づくり」に励んで行こうと、30周年を迎え決意を新たにしたところです。

また行事担当でもあるので、利用者さんが楽しい施設生活を送れるよう、「春夏秋冬」季節感のある行事を考えて行こうと思います。

「おはようございます!!」今日も元氣な挨拶で一日が始まります。

温かい雰囲気に囲まれて

会計係 小林 克枝

名立園に勤めさせていただいてから、はや2年が経とうとしています。記念すべき30周年を皆さんと一緒に迎えられること、本当にうれしく思います。思い出せば12年前、ボランティアとして名立園を訪問したことがありました。その時は、まさか自分が勤めることになるとは夢にも思っていませんでした。縁あってお世話になることになった2年前も12年前も変わらず、利用者の皆さんが温かく迎えてくれたこと今でもはっきりと覚えています。そんなあつた

かい雰囲気の中で、多くの方々に助けられ支えられ日々業務に励んでいます。

利用者の皆さんの笑顔がこれからもずっと続くよう、微力ながらお手伝いをさせていただきたいと思っています。そして、先輩方が築いてこられた30年という重みあるバトンをこれからも長く繋いでいけるよう頑張っていきたいと思っています。

名立園と共に過ごした11年

支援相談員 石井 行信

名立園が開園した昭和55年、私はまだ3歳でした。中学校時代は、高台にある名立園を窓からよく眺めていました。その施設に自分が勤務することになるとは、その当時は夢にも思っていませんでした。その施設に勤務させてもらいはや11年。初めは臨時職員として、そして名立園では初めての男性介護員として勤務を始めました。

周りの職員は女性ばかりで戸惑いも多かった事を思い出します。そして利用者さんも男性の

介護員が珍しく、性別を確認に来る方も何人かおられました。様々な事がありましたが、利用者さんの笑顔と励まし、そして周りで支えて下さったたくさんの職員のおかげで今日まで勤める事が出来ました。

2年前に介護員から支援相談員となり業務の内容は変わりましたが、30年という長い歴史を持つこの名立園を支えてきた職員・利用者の方々と共に、これからの歴史を刻んでいきたいと思っています。

感謝の気持ちを忘れずに

支援相談員 亀井 大善

「福祉施設で働きたい!!」と思うようになったのが中学生時代でした。祖母の影響もあって、特別養護老人ホームへ出入りする機会が多かった為だと今は思います。ボランティアにも参加するようになり、施設で利用者の方と関っていく中で、「ありがとう」と言われる事が何よりうれしかった事を覚えています。今ではその夢がかない、名立園での生活も3年を超えました。老人福祉施設ではケアワークが主体となっていますが、名立園ではケアワークはもちろん、ケー

スワーク、ソーシャルワークと仕事は多岐に渡ります。救護施設は利用者の方のニーズの幅がとても広く、とてもやりがいのある仕事です。私は相談員としてまだまだ半人前ですが、今自分にできる事を一生懸命全力で取り組み、多くの方への感謝の気持ちを忘れずに、どんどん多くの事を経験し、いつか一人前になれるように、利用者の方々と共に成長していきたいと思っています。

利用者の気持ちに立って

介助員(パート) 安達 夕美子

私が名立園にお世話になり、早いもので9年が経ちました。入職当時は慣れない仕事に加え利用者109名の名前と顔を覚えるのに必死でした。一人ひとり顔も違えば性格も個性があります。相手の事を知らないで良かれと思いついてあげた事が逆に迷惑だったり、怒らせてしまったりと相手の立場に立つ難しさも知りました。

私は看護師補助の仕事ですが、「看護師は治療をするだけが仕事でない、話を聞いてあげると相手はホットする。手当てとは痛い所に手を当

てて撫でてあげる、それだけでも不安な気持ちを和らげる」など素人の私でも出来ることを看護師からいろいろと教わりました。

これからも名立園・利用者の方に立てるよう努力していきたいと思っています。



30年を振り返って

介護係長 塚田 信子

期待と不安でスタートした名立園寮母の仕事が、早いもので30年が過ぎてしまいました。開園して数日経った頃、出勤した玄関で担当になったKさんから「お帰りなさい」と言われ、嬉しかったことを覚えています。

私には知的障害者の弟がいます。「これからは福祉の時代」という両親の希望で、福祉の仕事に就きました。きっかけは他者からではありませんが、30年もの長い間勤めさせてもらったのは、自分に合った仕事と良き仲間恵まれた

おかげと思っています。開園当初は職員と利用者みんなで名立園の基盤を作り、無我夢中でしたが、生活を楽しんでいるように思いました。それが、徐々に利用者の高齢化・重度化等で、個々の支援の難しさを痛感しています。時代の流れで救護施設の役割は様変わりしています。しかし、どういう状況になっても「名立園の誠心誠意お世話する」という伝統は受け継いでほしいと思っています。

30年。そしてこれから。

介護係長 池亀 潤子

名立園で最高齢91歳のIさんの介護をしながら30年前を思い出してみました。当時はIさんも働き盛りで、名立園の代名詞ともなるペーパーフラワーの製作に携わっていました。今では車椅子での生活となりましたが、視力や会話がしっかりして毎日様々な気づきを投げかけてくれています。

思えば30年前の未熟な私がここまで勤められたのも、寛大な利用者の方々のおかげと感謝しています。そして何よりも当初一緒に出発

したかけがえのない仲間の励ましで色々な壁も乗り越えてくる事が出来ました。一緒に出発し頑張ってきた仲間も年々退職し、新しいメンバーが新しい風を吹き込んでいます。

その若者たちをしっかりと育て、目の前にいるIさんをはじめとした利用者の方々の介護に出来る限りの力を注ぐ事が、何よりの恩返しと考えて一日一日を大切に過ごしていきます。

名立園と共に

介護員 土肥 節子

創立30周年おめでとうございます。職場を通じ沢山の方々と知り合い、学び、思い出を作る事が出来ました。30年の間には楽しい事も沢山ありましたが、失敗や悩みも多く落ち込む事もありました。楽しい時は何倍もの楽しさに、失敗は利用者の方々や仲間から励まされ、頑張る事が出来ました。心配事も沢山ありましたが、職場があるお陰で乗り越える事が出来ました。感謝しています。忙しい日々の中で忘れがちな相手を思いやる心と優しい気持ちで明るく過せ

たらと思っています。人生の半分を名立園で過ごさせていただき、来年3月に退職を迎えます。私にとって名立園で過ごした30年は充実しております。ありがとうございます。また長い間、仕事ができるように協力してくれた家族のみんな「ありがとう」。退職は少し淋しく感じるのですが、名立園で学んだ事を生かし、これからの長い人生を明るく大切に過ごしていきたいと思っています。

30年の思い

介護員 秦野 千江子

素敵な笑顔と優しい言葉に出会えて30年。苦しい時や辛い時、どれほど心の支えになっていただいたことでしょうか。日々、感謝しております。

開園当初、利用者、職員共全員で取り組んだ、河原への砂取りや畑の開墾、自転車道作り（現在、園周囲の舗装部分）、どれも懐かしく思い出されます。元気で、明るく何事にも一生懸命に取り組む姿に勇気づけられ、感動を覚えたことを忘れられません。年齢を重ねるにつれ、利用者の

高齢化や重度化が進んでいます。健康の大切さや責任の重さを実感しております。近年、利用者の多様化したニーズに、自分なりの支援をさせていただいていますが、心の健康の支援の難しさを痛感しております。

これからも自分の出来る限りの支援をしようと思っています。

また、よろしくね。

介護員 笠井 玲子

名立園に勤めて22年が経ちました。その中で産休・育休と1年以上ものお休みをいただきました。長期の休みが終わりいよいよ、職場復帰の初日はとても緊張したもので、上手くやっていたか不安でした。そんな私に利用者の方が、「あ、来たね。子どもさん大きくなったかね」「また、よろしくね」と声を掛けてくれました。緊張していた気持ちが温かい気持ちになり、また頑張ろうと思いました。

あれから14年が経ち今も名立園で介護員と

して仕事が出来ているのは、あの時の利用者の言葉があったからかもしれません。利用者の何気ない言葉は、私達職員の大きな励みになっています。その利用者も名立園と共に30年が過ぎ高齢の方が多くなり、日常での介護がますます必要となっています。そんな利用者の方が安心して名立園で過ごせるよう出来るだけのお手伝いができればと思い日々過ごしています。

利用者の笑顔とともに

介護員 池亀 久美子

名立園ができたと聞いて、名立町住民にも障害者に対する意識が高まるのかなあと嬉しく思いました。名立園開園の頃はミニコロニー構想で地元で色々施設ができ、私の妹もコロニー白岩の里から「かなやの里更生園」に移りました。それでもずっと名立園は高い所で遠い施設のイメージが私の中にありました。月日が流れて赤野俣の縫製工場で働くようになってから、妹が福祉関係のお世話になっているので、自分にも何かできることがあれば、名立園で掃除のおば

さんでもいいから働いてみたいなああと、アイロンかけをしながらずっと見上げていました。縁あってこの名立園で働くことができました。良い職員、利用者、地域の方々に囲まれて働けて幸せに思っています。今後も体に気をつけて利用者の笑顔に支えられながら、介護員として頑張っていきたいと思っています。

名立園30周年おめでとうございます。

開園30年によせて

介護員 斉藤 重子

名立園で仕事をさせていただくようになって、早30年近くが経とうとしております。あっと言う間の30年でしたが、本当に色々な事を経験し学ばせていただいた、30年でもありました。その間、利用者の方、職員、またこの名立園を支えて下さった、たくさんの方との出会いがありました。30年の間には私自身にも色々な波が押し寄せてきて、いつも同じ気持ちで出勤出来た訳では無かった様に思います。しかし出勤してくると、いつも変わらない利用者の「お

はよう」「待ったよ」などの挨拶、笑顔に本当に温かいものを感じてきました。またこの利用者の皆さんのために、誠心誠意尽くしておられる、ご家族の皆さんの姿に感動を覚えました。泣いたり笑ったりしながら、一緒に仕事をして来た仲間たちとの出会い一つ一つが私の30年間の宝物になりました。この素晴らしい出会いに感謝しながら、これからの出会いも素晴らしいものになるよう、私自身努力したいと思います。

祝 30周年

介護員 木村 裕紀子

創立30周年おめでとうございます。名立園開所当初は利用者も職員も若く、とても活気がありました。寮母として勤務し、色々なことが起こる毎日を利用者と一緒に楽しみ、笑いあい、時には涙することもありました。自分が家庭を持ち子育てすると利用者ご家族の大変さも分かるようになりました。

個人的には何度もくじけそうになることがありましたが、そのたびに名立園に勤務させていただいたおかげで、職員、利用者の皆様に助け

てもらいました。利用者と話している間に心が晴れて、また頑張ろうという気持ちになりました。

利用者の一人、T.Kさんは忘れられない方です。私の方がいつも助けられていました。ユーモアと心の広さがありました。

名立園は今後、益々高齢化が進みますが、一人ひとりが心豊かな生活が送れるように、ぬくもりのある支援に努めたいと思います。

ありがとうございます。

介護員 高橋 栄子

30年を振り返り、まず思い浮かぶのは「感謝」です。自分なりに将来は考えていたのですが、ちょっとしたきっかけで、どうしても介護の仕事がしたくなりました。社会人として名立園の開所と一緒にスタートできる機会を与えていただきました。資格もなく「やる気」だけで、勤め始めました。

それから30年。今思うと、何より健康である事が1番です。健康でいられる今を与えてくれた両親にも、そして自分だけでなく家族の健

康と理解にも感謝です。公私共に名立園の皆さんに、迷惑をかけながらも見守られながら迎える事が出来た30年です。あと10年余りですが、この体力が続く限り名立園に居させて頂きたいと思っています。精一杯頑張りますので宜しくお願い致します。



回想 初心にかえり

介護員 五十嵐 美佐子

名立に入ると、故郷にきたような気持ちになります。家族と過ごすよりも名立園にいた時間が長くなりました。人間関係の良さと、家族の協力もあり、ここまで勤めることができました。知的障害者に関わる仕事がしたいと思っていた矢先、運よく名立園開設と重なり、勤めることになりました。何も知識はありませんでしたが、「愛があれば大丈夫」と本当にその時は純粋な気持ちで、使命感みたいなものを感じ、天職に恵まれありがたく思いました。

でも、現実には愛だけではなかなかうまくいきません。色々な失敗や、利用者の方とのやり取りで一喜一憂し、自信をなくし、それでも些細なことに「ありがとう」と言ってもらって感激し、「よし、がんばるか」という気持ちになります。私たちは利用者のみなさんの人生に関わっているという重みを感じ、名立園での生活に不安がなく、元気で過ごしていただけるよう支援していきたいと思います。名立園に関わるすべてのみなさんに感謝です。

介護員として

介護員 高橋 和代

昭和63年、自分が働き始めたころに比べ利用者は重度高齢化が進み、車椅子や歩行器を使用される方が増え、施設は廊下や居室、トイレに手すりが付き、洋式トイレやベッドの部屋が増え、機械浴が導入されました。3大介護に費やす時間が増え、一人ひとりに関わる時間が減ったように思います。

住み慣れた地域や家族から離れて施設生活を送っている利用者の気持ちや、ご家族の思いを察すると身につまされます。介護員として何が

出来、何が出来ないのか。利用者の日々変化する心身の状態や、思いもかけない言動に、どう対応することがその人にとってベストなのか、その人の人生に寄り添うこと、その人らしい生き方をサポートすることの難しさを感じます。

名立園の職員として、運営方針の目標を達成できるように日々努力することは当然のこと、単なる技術や知識だけでなく、心のこもったヒューマンサービスを提供できる介護員でありたいです。

今までを振りかえって思うこと

介護員 若月 大輔

名立園開設30周年おめでとうございます。名立園に勤め始めた当初、私はまだ19歳でした。そのときはただ介護職に興味があるだけで、介護に対しての知識はもちろん技術も全く分からず、色々と職員や利用者のみなさんに迷惑をかけていたのを覚えています。それから名立園に介護員として勤めてもう8年目が過ぎました。自分自身、介護員として少しは成長できた部分もあるとは思いますが、仕事するなかで未だに迷惑をかけていることが多々あり、まだまだ未

熟であることを痛感しております。それでも今まで介護職を続けてこられたのも職員や利用者の皆さんが温かく見守り、支えてくれたからこそだと思っています。高齢化・重度化が進む中、利用者の皆さんにより質の高い介護サービスを提供していくためにも、日頃から介護員としての自覚と責任を持って一生懸命仕事に取り組み、「利用者の皆さんが在ってこそ自分」であることを忘れずに今後も努力していきたいと思っています。

初心を忘れずに

介護員 竹田 圭織

名立園に勤め3年目になりました。入社当時、何も分からず不安だった時に笑顔で声をかけてくれたのは利用者の方々でした。見ず知らずの私に声をかけてくれた事がとても嬉しく純粋な方が多いと感じた事を覚えています。小さい頃からずっと福祉の現場で働きたいと考えていましたが、想像と現実が大きく異なり壁にぶち当たり悩んでしまう事もありました。そんな時に、元気をくれたのは利用者の方々でした。笑顔を見たり声をかけたりしてくれる事で、嫌な事も

吹っ飛んでいきました。日々利用者の方々から元気をもらっているぶん援助者として個別のニーズに対応し質の高いサービスを提供していかなければならないと思っています。高齢化・重度化している中で利用者が本当に望んでいる事は何か、必要としている事はどんな事かをしっかりと見極め、先輩職員から学んだ事や学校で学んだ事を生かし、今後も成長していきたいと考えています。

私の理想の介護福祉士

介護員 長池 彩香

名立園創立30周年、おめでとうございます。私が名立園を知ったのは専門学校に通っていた頃、実習でお世話になった事がきっかけです。名立園の利用者の方はとても明るく笑顔がとても素敵だと思いました。介護の仕事は大変と思う事はありますが、利用者の方が「おまんの事好きだもん」「明日来るの？来ないと寂しいわ」と言ってくれる事で辛い事も大変な事も忘れ、介護の仕事をしてよかった、名立園に勤める事が出来てよかったなと思います。

私が専門学校を卒業する時、理想とする介護福祉士とは利用者の能力を十分に生かせるように支援していく人でした。利用者の事を考え、行動出来る介護福祉士となり、信頼を得られるようになりたいと思います。そして、障がいがあっても幸せだと感じてもらえるようにしたいです。

名立園で働き始めて、まだ2年目で分からないことばかりですが、これからも精一杯利用者の方の支援をさせていただきたいと思っています。

30周年

介護員 高津 成美

名立園30周年おめでとうございます。私は、名立園に入社して2年目になります。1年目はとにかく仕事を覚えることで精一杯でした。日々、先輩介護員より名立園の30年の歴史を聞くことが多いです。現在は高齢者が多く中で介助を要する利用者さんが増え、業務に追われている毎日です。30年の名立園の歴史を大切に、今後も利用者さん達が楽しい園生活を送れるような環境を提供していきたいと思っています。

専門学校時代に描いていた理想の介護福祉士は「利用者さん達に頼ってもらえるような存在、日々の変化に気付くこと」。初心を忘れずにこれからも努めていきたいと思っています。



祝 30周年

介護員 齋藤春香

名立園創立30周年おめでとうございます。
名立園という存在を知り初めて見学に来た日、緊張と不安でいっぱいの私に「こんにちは！」とたくさんの方が笑顔で話しかけてくださり、私も自然と笑顔になれた事を覚えています。明るくて、笑顔であふれた場所というのが第一印象でした。そして運よくこの名立園に就職が決まり数カ月が経ちました。働き始めてからも利用者の方は変わる事なく気さくに話しかけてくれています。また、介護に対する何の知識も、

経験もなく戸惑ってばかりの私に嫌な顔せず優しく、丁寧に一から教えてくださっている先輩方に日々感謝しています。そんな事のおかげでこの仕事を始めてから毎日がとても充実していて仕事が楽しくないと感じた事はありません。この気持ちを忘れずに頑張っていきたいと思えます。

名立園と共に30年

介護員（パート） 竹内祥子

30年前、高校を卒業したばかりの私は、名立園で社会人としての第一歩を踏み出しました。最初に担当させていただいた利用者は四名で、内三名の方は今も元気に名立園で生活されています。当時を振り返れば、経験はおろか知識もない私が利用者のために何か役に立てたのかと思うと申し訳ないような複雑な気持ちでいっぱいですが、私を育ててくれた利用者には感謝をし、末長く健やかに暮らしていただきたいと願っています。

私自身は、結婚を機に10年程家庭に入りましたが、家が施設から近いこともあり散歩の途中で立ち寄ってくれたり、一人で散歩に出てきた方を施設に送ったりと離れてはいてもいつも身近に名立園はありました。その後再び勤めることになり、時には産休の代替え等で夜勤もして30年の月日が流れました。これからも利用者ここに名立園で安心して生活していただけるよう努めて行きたいと思えます。

祝 30周年

介護員（パート） 高津典子

名立園創立30周年おめでとうございます。
30年前、私は高校生で名立園という施設を知らずに過ごしておりました。縁あって名立に嫁ぎ、平成7年6月より名立園に勤務させて頂き15年が過ぎようとしている今、本当にあっという間に過ぎてしまったように思えます。

家の裏に自転車道路があり、子供が小さかった頃に散歩をしておりますと空き缶集めの作業を終えて帰る利用者さんがよく「こんにちは！」と元気な声であいさつしてくれた事は今でも忘

れません。今では、出勤時「おはよう！」から始まり帰りは「気を付けて帰らないね！」と心配してくれる利用者さんは私の元気の源です。元気に過ごしていただけるよう、一生懸命に支援してまいります。



今、思うこと

介護員（パート） 竹内 てるみ

30年前、私は中学校から名立園の建物を見て何の施設ができたのかと思っていました。その頃、自分がその施設で介護の仕事をしようとは思ってもみませんでした。

開園当初、地域の行事に利用者と職員が一緒に楽しそうに参加していた事を思い出します。ですが現在は高齢化の為、地域の方と触れ合うことが少なくなった事が残念に思います。

我が家の娘は園と家が近いため、小さい頃から利用者の方から声をかけていただき、自然と

園のボランティアに参加させていただくようになりました。私が学生の頃は、ボランティアをするなんてことは考えもしませんでした。

現在縁あって介護の仕事をさせてもらい、まだ知識や経験が未熟な私ですが笑顔で利用者の方に喜んで過ごしていただくように努めていきたいと思えます。

感謝の気持ちを忘れずに

給食係長 新保綾子

私が大好きな名立園に勤務して早30周年を迎えます。振り返ってみるといろいろな思い出がありますが、利用者の笑顔と仲間の職員、家族に支えられて頑張ることができたと思う毎日です。

出勤してくると、「毎日御苦労さん。今日は何？、おやつは何？、ラーメン食べたいんだけど？」毎日の会話は同じであっても私を迎えてくれる利用者が大好きです。30年が経過して一人ひとり嚙下の状態や食形態の違いが大きく

なり、個々に合った食事の提供が今後の課題となっています。そのような中でも単調になりがちな施設生活の中で四季折々の行事を通じて「食」の大切さを受け止めていただき、「食」が生活の糧である事を伝えていきたいと思えます。

そして、「食」を通して何事にも感謝する気持ちを持っていただけるようなサービスの向上を目指したいと思います。そして、「食べられる」という事が当たり前ではなく、ありがたいことだという「感謝の気持ち」を持っていただけるような支援も心がけたいと思えます。

皆さんの笑顔が元気の源です

調理係長 伊藤優子

名立町に初の福祉施設である救護施設名立園が開設されて、今年で30年になります。

私が勤務したのは、その5年後で今年25年目になります。福祉のことも分からずこれまでやってこれたのは、一緒に働く仲間と良いコミュニケーションがとれたことと、利用者さんからの笑顔や声かけがあったからだと思えます。

利用者さんが生活の場である名立園で、楽しく過ごしていただくため、この30年間いろんな行事やサービスを行って来ましたが、利用者

さんも高齢になり、時にはこのサービスも負担になることが増えてきたようです。

今後は、今まで以上に個々のニーズに合わせた給食サービスで少しでも喜んでもらえるよう努力したいと思います。

そして、私達の元気の源は利用者の皆さんの「笑顔」です。

開園30周年を迎えて

調理員 町田 和志子

昭和55年4月に名立園開園。調理員として勤めさせていただいて30年が経ちました。この月日を大過なく勤めることができたのは、園長をはじめとする先輩方のご指導と後輩達の協力があつたからこそで、とても感謝しています。

調理業務については、利用者の高齢化、重度化に伴い年々複雑、多様化してきています。食事形態も、刻み、極小、とろみ、ムース、病人食などと様々で、手間のかかることも多くなってきました。しかし、利用者に満足していた

だけ、さらに充実したサービスとなるよう、このような細かい作業にも力を入れて取り組んでいきたいです。

30年が経ち、さらなる名立園発展のためにも、微力ではありますが、これまで学び、経験したことを同僚の皆様と一緒に協力して、給食調理に向き合っていきたいと思っています。

常に穏やかな気持ちで

調理員 本多 佳代子

ドキドキ胸を高鳴らせた勤務初日がつい昨日のことのようですが、こちらでお世話になり、早1年が経とうとしています。

調理室の仕事は、1日立ちっぱなしで力仕事も多くなかなかハードですが、調理室にも名立園が持つアットホームな雰囲気があり、良い仲間にも囲まれているおかげで毎日楽しく業務をすることが出来ます。

開園当初より利用者の方々の高齢化・重度化が進み、食事内容も多様化しています。先輩

方から教えていただきながら、安全で適切な食事を提供できるよう日々努めていきたいと思えます。

名立園のこれからの未来へ向け、利用者と一緒に常に穏やかな気持ちで歩んでいきたいです。



未来へ

調理員 岩本 尚子

創立30周年おめでとうございます。

名立園は、私が生まれる前からの施設です。私はここに勤めて4年目になりますが、創立当初から働いている先輩方から調理の仕事も教えてもらったり、その頃の苦労話などを聞いたりしています。

この仕事をしていて一番嬉しいのは、「おいしかったよ!」と利用者さんが言ってくれることです。

日々めまぐるしく変化していく中で、今以上

のサービスを提供できるよう、そして利用者の方々の笑顔をいただけるように、気持ちを込めた調理をしていきたいと思っています。それにはまだまだ学ばなければならないことがたくさんあります。

10年、20年先の未来につなげていけるよう、今を一生懸命頑張りたいです。

ともに野菜を作って

調理員 (パート) 高橋 和子

地元で施設ができて30年、当時はまだ勤めに出られるような状態ではなかったのですが、時が経ち、名立園の調理員として勤めて10年が経ちます。利用者の方々の高齢化とともに調理方法もずいぶん変わってきました。その中で自分のできる範囲で腕をふるっているところです。

一方、施設へ地元の野菜を供給しているグループの一人として野菜作りに精を出しています。設立当初から地元の野菜を使ってもらい、みんな喜んでいました。

利用者の方々の皆さんも作業で野菜作りを頑張っています。じゃがいも、なす、ピーマン、かぼちゃ、里芋、大根等、今年の出来はどうだったんでしょうか?

今後とも、地域に密着した施設として発展していく事を願っています。

日々感謝

調理員 (パート) 草間 信子

私が東京から名立に移り住んで31年。

翌年に名立園が開園になりました。当時の私には、名立園の調理室で働かせていただくとは夢にも思いませんでした。

ここに勤めさせていただき7年が経ちましたが、家庭での調理とは異なる面で苦勞もしました。利用者の方々の「おいしかったよ!」の言葉と笑顔、そして一緒に働く仲間にもささえられ、今日まで頑張ってきたのだと感謝しています。

名立園創立30周年おめでとうございます。

そして、ありがとうございます。



QC活動 (発表会) の様子

写真でつづる名立園の30年



開園記念式
(昭和55年4月)



名立園竣工式
(昭和55年5月)



七夕の集い
(昭和55年7月)



初めての運動会
(昭和55年10月)



みんなで海水浴
(昭和56年7月)



祇園祭に参加
(昭和57年7月)



名立祭でペーパーフラワーの販売
(昭和57年7月)



クリスマスパーティー開催
(昭和57年12月)



運動会 (名立中学校グラウンドにて)
(昭和59年6月)



草津温泉バス旅行
(昭和57年9月)



ひなまつり (大きな声で合唱)
(昭和58年3月)



名立祭でお神輿パレード
(昭和59年8月)



スペシャルオリンピックに出場（東京駒沢）
（昭和61年6月）



ひまわり班慰労会（三輪台いこいの広場）
（昭和61年9月）



新春お楽しみ会（こたつで鍋を囲む）
（昭和63年1月）



列車遠足（能生白山神社へ）
（平成元年9月）



創立10周年記念式
（平成2年6月）



10周年記念旅行（貸切列車で芦原温泉へ）
（平成2年9月）



環境美化班バス停掃除で感謝状授与
（平成3年4月）



文化祭演芸発表会（かぐや姫）
（平成3年11月）



ビーチレクリエーション
（平成4年7月）



保健の日（スニーカー洗い）
（平成5年4月）



大清掃（家族会主催）
（平成7年7月）



体力見直し週間（腕相撲大会）
（平成8年10月）



家族会洗濯ボランティア
（平成10年9月）



名立祭前夜祭 民謡流しに参加
（平成11年7月）



駄菓子選択おやつ会
（平成9年11月）



自治会新年会で福笑い
（平成11年1月）



寿司の日
（平成11年11月）



20周年記念旅行（総勢120名で栗津温泉）
（平成12年6月）



福祉運動会
（平成14年5月）



宝田小学校4年生と交流会
（平成16年6月）



そば打ち体験
（平成13年11月）



海岸清掃
（平成15年6月）



棟対抗ミニ運動会
（平成17年3月）

近年の動向 平成18年度

- 4月 ○ 拡張及び大規模修繕工事竣工式
利用者による合唱を披露
- 5月 ○ 第1班日帰り旅行（長野黒姫高原）
利用者14名参加
- 地域懇談会
（直江津、高田、妙高地区）
- 第23回福祉運動会開催
- 総合避難訓練及び職員消火訓練
- 6月 ○ 家族会による清掃奉仕
- 地域懇談会
（糸魚川、浦川原、柿崎地区）
- 第2班日帰り旅行（長野黒姫高原）
利用者20名 家族8名参加
- 名立園協会より日産セレナの寄贈あり、お祝いをしてもらう
- 7月 ○ 地域懇談会
（青海・能生、十日町、板倉地区）
- 第3班日帰り旅行（長野黒姫高原）
利用者13名参加
- 8月 ○ 盆踊り大会開催
- 名立園ボウリング大会
- 保健の日に「涼を楽しむ」として、みんなで水遊びをする
- 「全国教育のうたごえ祭典in妙高」利用者24名参加し、ボディーパーカッション披露
- 9月 ○ 「防災の日」地震想定避難訓練及び非常食会食実施
- 第4班一泊旅行（岐阜県高山市）
利用者23名参加
- 新潟県救護施設協議会主催ボウリング大会に利用者11名参加
- 自治会主催の敬老会開催
- 10月 ○ 第5班一泊旅行（新潟月岡温泉）
利用者19名参加
- 4市（上越市・糸魚川市・妙高市・十日町市）福祉担当者連絡会議開催
- 名立北部地区敬老会に参加
- 特殊浴槽が設置される
- 第6班日帰り旅行（食事会）
うみてらす名立光鱗で利用者6名参加
- 11月 ○ ピアノとフルーツのミニコンサートが行われる
- 名立園祭が盛大行われる
- 「大菅深雪そばの会」の皆さんが来園
そば打ち体験実施
- 12月 ○ 名南保育園交流会 踊りの披露他、一緒に遊戯を楽しむ
- 福祉QCサークル発表会開催
- クリスマス会
ボランティアの協力で、ピアノ演奏と煎れたての珈琲を堪能
- 自治会主催忘年会
- 1月 ○ 自治会主催新年会
- まゆ玉飾り
- 各作業班が慰労会を実施（～3月）
- 2月 ○ ビデオ映画会実施
- 自治会主催節分豆まき
- 3月 ○ 江野神社で厄払い
- 物故者法要
- 棟対抗ミニ運動会
- 金井調理員お別れ会



拡張及び大規模修繕工事竣工の様子と修繕が完了した居住棟（4月）



好きなおやつを自分で選びました
おやつ出張販売（6月）



3ヶ月の練習の成果を披露しました
全国教育のうたごえ祭典 in 妙高（8月）



高山「まつりの森」でさるぼぼに変身
第4班一泊旅行（9月）



初めてそば打ちを体験する
「大菅深雪そばの会」訪問（11月）



好きなものを自分で選択しました
カフェテリア食（2月）



冬の運動不足を解消します
棟対抗ミニ運動会（3月）

平成19年度

- 4月 ○ 県議会議員選挙不在者投票
- 新潟県神保副知事来園し視察
- 開園記念祭開催 パペット岩嶋夫妻による腹話術披露
- 5月 ○ 第1班日帰り旅行(糸魚川温泉) 利用者14名参加
- 地域懇談会(直江津、高田、妙高地区)
- 総合避難訓練及び職員消火訓練
- 福祉運動会開催
- 6月 ○ 第2班日帰り旅行(糸魚川温泉) 利用者22名、家族9名参加
- 地域懇談会(糸魚川、浦川原、柿崎地区)
- 7月 ○ 地域懇談会(能生・青海、十日町、板倉地区)
- 祇園祭見物に利用者24名参加
- 16日10時13分、新潟県中越沖地震発生 建物に被害があったものの、けが人はいなかった
- 愛とヒューマンのコンサート開催
- 参議院議員選挙不在者投票
- 8月 ○ 名立園ボウリング大会
- 納涼会開催
- 9月 ○ 地震想定避難訓練実施
- 第3班一泊旅行(山梨石和温泉) 利用者23名参加
- 第4班日帰り旅行(糸魚川温泉) 利用者7名参加
- 「岩崎セツエ様米寿のお祝い会」 剣豪会名立道場6名が、詩舞と剣舞で祝いの舞を披露
- 家族会大掃除・網戸洗い実施 32家族参加

- 10月 ○ 第5班一泊旅行(富山宇奈月温泉) 利用者18名参加
- 名立北部地区敬老会に、利用者6名が招待される
- 第6班日帰り旅行(食事会)(マリンドリーム能生で買物をして、うみてらす名立で食事) 利用者4名参加
- 4市福祉担当者連絡会議開催
- 11月 ○ 第47回名立区駅伝競走大会に職員が出場。沿道で利用者15名が声援を送る
- 名立園祭が盛大に行われる
- 12月 ○ 配膳、片付け当番慰労会実施 26名が食事会を楽しむ
- クリスマス会を開催 珈琲工房かさはら様より珈琲を入れて頂く
- 自治会主催忘年会
- 1月 ○ 自治会主催新年会
- まゆ玉飾り
- 各作業班が慰労会を実施(～3月)
- 2月 ○ 自治会主催節分豆まき
- ビデオ映画会開催
- 3月 ○ 江野神社で厄払い
- 物故者法要
- 棟對抗ミニ運動会
- 金子園長、足利介護員お別れ会



▲みんなで出迎えをしました
神保副知事来園(4月)

◀楽しいひとときを過ごしました
開園記念祭(4月)



新しい作業も軌道に乗りました
銅線被覆外し作業(6月)



一年に一度の大切な恒例行事
地域懇談会(十日町地区)(7月)



ピアノとバイオリンの音色が体育館を包む
愛とヒューマンのコンサート(7月)



冷水と美味しい素麺で暑さを飛ばしました
保健の日(流しそうめん)(8月)



みんなでお祝いしました
岩崎セツエ様米寿の祝い(9月)



新年の伝統行事 無病息災を願います
まゆ玉飾り(1月)

平成20年度

- 4月 ○ 開園記念祭にピアノ、フルート奏者を迎えて盛大に行う
- 総合避難訓練実施
- 作業棟避難訓練実施
- 5月 ○ 第1班日帰り旅行（寺泊岬温泉）利用者15名参加
- 自治会役員がグループホーム「愛の家」の施設見学を行う
- 赤野俣地区農村公園草取りに参加利用者8名
- 福祉運動会開催
- 地域懇談会（直江津、高田、妙高地区）
- 6月 ○ チェンバロ奏者の福田直樹様が初来園演奏を楽しませてもらう
- 名立園が当番施設として新潟県救護施設研究協議大会を妙高市で開催
- 第2班日帰り旅行（寺泊岬温泉）利用者19名 家族9名参加
- 地域懇談会（糸魚川、浦川原、柿崎地区）
- 七夕飾り
- 7月 ○ 地域懇談会（能生・青海、十日町、板倉地区）
- 祇園祭見物に利用者48名参加
- 第3班日帰り旅行（寺泊岬温泉）利用者15名 家族2名参加
- 新赤野俣橋開通式に参列園長・利用者4名
- 地域行事「いきいきサロン」に利用者2名参加
- 夜間総合避難訓練実施
- 8月 ○ 納涼会開催
- 川原理学療法士による講演会
- 名立園ボウリング大会

- 9月 ○ 第4班一泊旅行（群馬磯部温泉）利用者24名 家族1名参加
- 体育館・機械室等のアスベスト調査を受け、結果異常なし
- 新潟県救護施設協議会主催ボウリング大会
- 自治会主催敬老会
- 小林調理員お別れ会
- 10月 ○ 第5班一泊旅行（長野野沢温泉）利用者19名 家族1名参加
- 第6班日帰り旅行（食事会）利用者5名参加
- 4市福祉担当者連絡会議開催
- 11月 ○ 名立園祭が盛大に行われる
- 12月 ○ 地上デジタル放送対応テレビ10台設置
- 自治会主催忘年会
- クリスマス会を開催。珈琲工房かさらは様より珈琲を入れて頂く
- 1月 ○ 自治会主催新年会
- まゆ玉飾り
- 各作業班が慰労会を実施（～3月）
- 福祉QCサークル発表会開催
- 2月 ○ 自治会主催節分豆まき
- ビデオ映画会開催
- 3月 ○ 江野神社で厄払い
- 物故者法要
- 棟対抗ミニ運動会
- 救命救急法講習会を実施
- 青山介護員、竹内調理員お別れ会



▲露店の雰囲気の中で乾杯しました
開園記念祭（4月）

◀正面玄関が華やかに飾られました
七夕飾り（6月）



いざという時のために毎年実施しています
夜間総合避難訓練（7月）



軽井沢のホテルでフランス料理を堪能
群馬磯部温泉一泊旅行（9月）



役員による踊りと歌でお祝いしました
自治会敬老会（9月）



残暑の中ゲートボールをしました
保健の日「日光に当たろう」（9月）



赤いリンゴをたくさんもぎました
長野野沢温泉一泊旅行（10月）



邪気（鬼）を追い払いました
節分豆まき（2月）

平成21年度

- 4月 ○ 開園記念祭にかなやの里更生園太鼓クラブを迎えて盛大に開催
- 第1班日帰り旅行(柏崎) 利用者17名 家族3名参加
- 川原理学療法士が月4回、渡辺運動指導員が定期来園しリハビリ指導及び運動指導を開始
- 5月 ○ 新型インフルエンザの国内流行に伴い、地域懇談会(直江津、高田、妙高地区)・福祉運動会を中止
- 地域奉仕活動で農村公園の草取り 利用者5名参加
- 6月 ○ 全館畳の表替えを実施
- 第2班日帰り旅行(富山魚津) 利用者15名 家族7名参加
- 地域懇談会(糸魚川、浦川原、柿崎地区)
- 七夕飾り
- 7月 ○ 地域懇談会(能生・青海、十日町、板倉地区)
- 祇園祭見物に利用者47名参加
- 第3班日帰り旅行(長野黒姫高原) 利用者11名 家族1名参加
- 福田直樹氏によるチェンバロ演奏を鑑賞
- 夜間総合避難訓練実施
- 8月 ○ 川原理学療法士による介護技術講演会開催
- 中学生の職場体験事業で2名の生徒を受け入れ
- 名立園ボウリング大会
- 愛とヒューマンのコンサート
- 納涼会は雨天により屋内で開催 プアマリアの皆さんによるフラダンスの披露
- 9月 ○ 第4班一泊旅行(山形温海温泉) 利用者22名参加
- 自治会主催敬老会
- 新潟県救護施設協議会主催ボウリング大会は新型インフルエンザ流行のため中止
- 10月 ○ 第5班一泊旅行(五泉市咲花温泉) 利用者19名 家族1名参加
- 家族会網戸洗い実施 家族34名参加
- 第6班日帰り旅行(食事会) 利用者8名参加
- 4市福祉担当者連絡会議開催
- 11月 ○ 名立園祭は新型インフルエンザの感染予防対策により中止
- 園内で芸術鑑賞会を開催。作品展示を行い、能生中学校小竹先生のピアノ演奏を鑑賞
- ラーメンボランティアの慰問
- 第7班一泊旅行(赤倉温泉) 列車での旅行を実施し利用者7名参加
- 12月 ○ 地上デジタル放送対応テレビ15台設置し全室設置完了
- 自治会主催忘年会
- クリスマス会を開催 珈琲工房かさらは様より珈琲を入れて頂く
- 1月 ○ 自治会主催新年会
- まゆ玉飾り
- 各作業班が慰労会を実施(～3月)
- 2月 ○ 自治会主催節分豆まき
- ビデオ映画会開催
- 施設耐震診断の入札
- 3月 ○ 江野神社で厄払い
- 物故者法要
- 福祉QCサークル発表会開催
- 棟対抗ミニ運動会
- 救命救急法講習会を開催
- 恩田介護員、岡崎用務員お別れ会



青くて大きな湖、本当にきれいでした▶
野尻湖と黒姫高原日帰り旅行(7月)



悪天候のため屋内で行いました
納涼会(8月)



ラーメン最高!おいしかった!!
ラーメンボランティア(11月)



列車に乗って色々な景色も見ました
赤倉温泉一泊列車旅行(11月)



挽きたてのコーヒーを頂きました
クリスマス会(12月)



新しい年がスタート。元気で頑張ります
自治会新年会(1月)



いざという時の為にみんな真剣です
救命救急法講習会(3月)

平成22年度

- 4月 ○ 耐震診断を実施
- 口腔ケア講習会開催
- 第1班日帰り旅行(赤倉温泉)
利用者15名 家族1名参加
- 30周年記念開園記念祭にかなやの里
更生園ダンスクラブを迎えて盛大に開催
- 5月 ○ 地域懇談会
(直江津、高田、妙高地区)
- 福祉運動会開催
- 福田直樹氏によるチェンバロ演奏を鑑賞
- 総合避難訓練実施
- 地域奉仕活動で農村公園の草取り
利用者8名参加
- 6月 ○ 耐震補強設計入札
- 第2班日帰り旅行(柏崎)
利用者15名 家族3名参加
- 口腔ケア講習会開催
- 地域懇談会(糸魚川、浦川原、
柿崎、能生・青海地区)
- 二代目高橋竹山による津軽三味線コン
サートに利用者7名参加
- 七夕飾り
- 7月 ○ 地域懇談会
(十日町、板倉地区)
- 祇園祭見物に利用者38名が参加
- 第3班日帰り旅行(長野善光寺)
利用者14名 家族6名参加
- 夜間総合避難訓練実施
- カフェテリア食でバーベキューを行う
- 8月 ○ 名立祭花火見物
- 中学生の職場体験事業で2名の生徒を
受け入れ
- 名立園ボウリング大会開催
- 保健の日「涼を楽しむ」
- 愛とヒューマンのコンサート
- 納涼会に少年名立太鼓を招き盛大に開催
- 9月 ○ 第4班一泊旅行(石川片山津温泉)
利用者22名参加
- 救急法講習会
- 自治会主催敬老会
- 新潟県救護施設協議会主催ボウリング
大会



鏡開きで30回目の記念祭を祝いました
開園記念祭(4月)



きれいにしてもらってうれしいです
口腔ケア講習会(4月・6月)



パン食い競争 あっ、手を使っちゃった!
福祉運動会(5月)



懐かしい玩具がたくさんありました
柏崎日帰り旅行(こども時代館)(6月)



願い事かなうといいなあ
七夕飾り(6月)



お参りできてありがたいです
長野日帰り旅行(善光寺)(7月)



きれいな音色で心も穏やかに
愛とヒューマンのコンサート(8月)



迫力ある太鼓を聴かせて頂きました
納涼会(8月)

そして名立園は今

週間予定表 (平成22年度)

	日	月	火	水	木	金	土
6:00 冬期6:30	起床、洗面、着替え、清掃						
7:20	うがい、手洗い						
7:30	朝食 (服薬、後片付け) 歯磨き						
9:00	面接	面接・整容 全体集会	面接・整容				
9:30	整容衛生 自由時間	園内清掃	機能訓練 (運動療法、理学療法各1回) 作業				自由時間
10:15							自治会活動
11:00							
11:40	うがい、手洗い						
11:50	昼食 (服薬、後片付け) 歯磨き						
13:15	健康ウォーキング(日、土曜日は除く)						
13:45	月・水・金		-		女性要介助者入浴		
	火・木・土		-		男性要介助者入浴		
	日・月・火・木		-		趣味・娯楽		
15:30	休憩(おやつ)						
17:00	水曜日 - 自治会活動 日曜日を除き男女自立者入浴 居室整理・健康ウォーキング(日、土曜日は除く)						
17:40	うがい、手洗い						
17:50	夕食 (服薬、後片付け) 歯磨き						
18:45	自由時間・就寝準備						
22:00	消灯・就寝						

作業活動

利用者の年齢や重度化なども考慮しながら、個々の希望に出来るだけ沿った作業に就けるよう配慮している。また、作業活動が園での生活の中心となるように、またやる気のある人が生活の張り合いとして生き生きと取り組めるようにすると共に、一般社会の理解も得られるように努めている。

現在、8つの班に別れて作業活動を行っている。一部重複して所属している利用者もいるが、年度末にはその班独自の慰労会も実施して活動の疲れを癒している。

平成22年度内訳

班別、作業種目	男性	女性	作業内容
訓練班	22名	39名	リハビリ活動、玉のれん・貼り絵制作、紙袋作り
ペーパーフラワー班	1名	4名	ペーパーフラワー制作(コサージュ制作、外部販売)
環境美化班	18名	2名	バス停・名立駅舎清掃、空き缶潰し、園内外清掃
加工班	11名	0名	鍋敷き・花器の製作、電線被覆剥ぎ作業
生活作業班	3名	9名	食堂・洗濯室掃除、流し台掃除、洗濯物たたみ
コモ班	5名	0名	陣中ゴモ・こうじコモ製作
農作業班	8名	2名	畑作業(じゃが芋・なす・ゆうがお・大根等の栽培)
園芸班	2名	0名	花壇整備、四季折々の花の育苗



コモ班



農作業班



ペーパーフラワー班



加工班

クラブ活動

利用者一人ひとりが持っている技術を生かしながら興味や趣味を助長して、自ら喜んで参加できるような活動を計画している。その時間を楽しくそして有意義なものにするために、たくさんのボランティアの協力も得ながら活動を進めることで、施設生活が潤いのあるものにする。

平成22年度

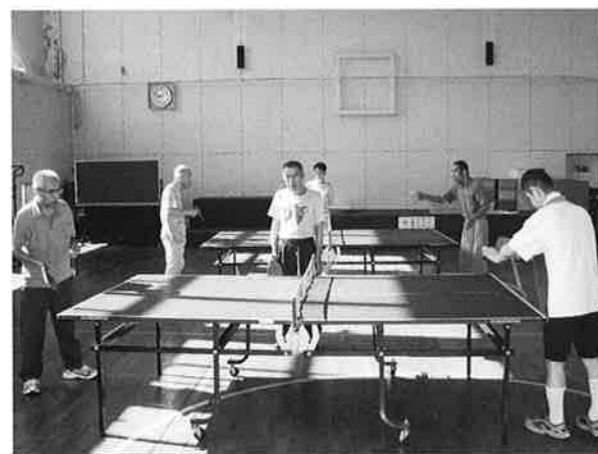
クラブ名	男性	女性	活動日	活動計画
生け花	1	7	第2・4(木)	作品の園内展示(ボランティア協力あり)
図画	7	3	第2・4(日)	ぬり絵・スケッチなどの作品の園内展示
手芸	2	21	第1・3・5(火)	利用者の適性に応じた作品制作 (ボランティア協力あり)
卓球	7	1	第2・4(月)	利用者同士ゲームを楽しむ
習字	5	2	第1・3・5(日)	作品の園内展示
カラオケ	12	6	第1・3・5(月)	歌の好きな人の交流の場にする



図画クラブ



カラオケクラブ



卓球クラブ



習字クラブ

ボランティア

利用者への支援は、ボランティアの協力なくしては語れないというほど、多大なる協力をいただいている。納涼会や名立園祭などの大きな行事は、ボランティアの皆さんの力がなければ実施が困難な状況にあり、今後も継続して協力いただけるようにはたらきかけていきたい。またクラブ活動においても、生花クラブや手芸クラブで継続してお力添えをいただいております。

ボランティアについては、施設と地域社会の接点と考えてこれからも利用者の社会性を養うためにも積極的に受け入れていきたいと考えている。



手芸クラブ



生け花クラブ



松代地区民生委員草刈り・清掃



手をつなぐ育成会草刈り・清掃



昭月会(踊り・民謡披露)



名南保育園訪問

保健

目標 利用者一人ひとりの心身の安定を図り、穏やかに暮らせるよう支援する。

機能訓練

体力の維持や生活に必要な動作の機能訓練を実施し、その人らしく施設で自立した生活が送れるように心がけている。現在毎週水曜日は運動指導員の指導のもとで楽しみながら体を動かし、体力維持や機能減退の防止に努めている。また週1回理学療法士による個別訓練やリハビリ指導、住環境の整備等を行って自立した生活ができるように支援している。職員は常に利用者の生活ぶりや言動に気を配り、より暮らしやすい環境作りに努力している。



渡辺運動指導員による運動指導



川原理学療法士によるリハビリ指導

疾病予防について

年々高齢化、障害の重度化が進んでいる昨今、利用者の疾病も複雑化しており、時には命に関わる状況に陥ってしまうということも十分に考えられる。そのため健康診断や定期健診を通して、疾病の早期発見、早期治療を行うことにより、安楽な生活ができるように配慮している。また、職員のスキルアップのために外部から指導者を招き、医療知識やリハビリ法、精神的援助の方法などの講演・講義なども受け、知識の習得にも努めている。また精神疾患を持つ利用者も増加傾向にあり、対応や支援の方法や疾病に対する理解も深めている。

感染症に関しても様々な対策を講じて実施している。利用者や職員の健康管理、施設的环境衛生、うがい手洗いの徹底等を図り予防している。

また、「保健の日」という保健行事も年に数回実施している。この行事を通し、利用者との触れ合いで心身ともに豊かな生活が送れるように努めている。そのうち2回～3回はレクリエーションも交えながら体を動かしてもらえるようにしている。その他にも、日常の中ではできないような活動をこの「保健の日」に実施している。



涼を楽しむ（水遊び）



屋外で運動（スカイクロス）

給食

食事は利用者の健康体力の向上を図る上で最も大切な要素である。単なる栄養補給だけでなく、心の平穏や喜びを与えてくれると共に心を潤すものでもある。利用者の楽しみでもある食事について、常にサービスの向上に繋がるように考えると同時に、食事を通して心身の健康が保たれるように努力をしている。現在は利用者にも給食部会へ積極的に参加してもらい、食事内容を検討する際に意見をもらっている。

利用者の年齢層や障害の度合いも、この30年で大きく様変わりしている。それに対応するためにも看護師や介護員と連絡を密に取り合い、その人にあった食事を提供できるようにしている。静養者、または疾病を抱えている利用者や高齢者などは、個々の状態や咀嚼・嚥下能力にあった調理方法で調理している。それと同時に、食器やスプーンも個々の状態に見合った物にしている。食事場所についても、食堂で食事を摂る事が出来ない方についてはユニット対応をさせてもらっている。

また、食事の内容が単調にならないように、様々な給食行事を実施して利用者楽しんでもらえるようにもしている。月1回のお楽しみ昼食会、一品選択食やトーストとコーヒーの日などに加え、季節や行事などに合わせながら、食事を通して四季を感じていただけるようにしている。



自分でパンを焼いて食べます
(トーストとコーヒーの日)



重度の利用者もアットホームな雰囲気
(ユニット対応)



バイキング形式で好きなものを食べます
(カフェテリア食)



盛大に鍋を囲んで年忘れ
(忘年会)

資料

社会福祉法人 久比岐福祉会 救護施設名立園沿革

- 昭和53年 9月 上越地方市町村連絡協議会総会において社会福祉法人の設置、運営とし建設を名立町に決定
10月 第1回社会福祉法人（救護施設）設立準備委員会開催
12月 第1回法人設立発起人会を開催
12月 第1回運営委員会を開催
- 昭和54年 6月 厚生省の法人設立認可を受ける
7月 法人登記を完了し、社会福祉法人久比岐福祉会設立 初代理事長 内藤久生就任 救護施設名立園建築工事着工
- 昭和55年 3月 救護施設名立園建築工事完工
4月 定員100名で運営開始 初代園長 桜井午七就任
7月 トヨタカローラ直江津信用金庫より寄付
9月 トヨタタウンエース新潟地方同盟より寄付
- 昭和57年 3月 園・池周囲外構防護柵工事完工（上越地域身心障害者福祉施設設置促進協議会より寄付）
5月 マイクロバス購入（26人乗り）
9月 倉庫兼車庫完工
12月 浴室、脱衣室、洗濯室の増改築完工（面積増16.56㎡）
- 昭和58年 12月 名立園の表看板青海町 伊藤清松さん寄贈取り付け（題字は青海町教育長 猪又進さんの書による）
- 昭和59年 6月 作業棟完工（上越22市町村補助金3,000千円、お年玉年賀はがき寄付金1,500千円、共同募金配分金1,500千円寄付）
- 昭和60年 6月 名立園地域懇談会開催（所管福祉事務所、名立園、名立園家族会の三者共催による）（以後定例）
7月 各棟廊下、階段手摺取り付けと壁塗り替、各棟入口拡張（面積増69.56㎡）
7月 初代内藤久生理事長退任、奥田義仁理事長就任
10月 奉仕クラブが国鉄金沢管理局長より感謝状（名立駅舎清掃奉仕に対し）を受ける
- 昭和61年 10月 夜間合同避難訓練（赤野俣協力隊、名立町消防団第1分団第3部、上越消防署名立分遣所参加による）を実施する（以後定例）
- 昭和62年 1月 初代桜井午七園長退職、牛木彌左エ門園長就任
7月 車庫完工
7月 トヨタタウンエース名立園協力会より寄付
7月 奥田義仁理事長退任、岡田泰雄理事長就任
- 昭和63年 2月 ボランティア室の特別居室への用途変更認可（収容可能人員108人）
2月 環境美化作業班が新潟県知事より「環境美化運動における地域模範活動団体」として表彰される
6月 食堂クーラー設備完工
- 平成元年 11月 スプリンクラー設備完工（国、県補助金22,133千円）
- 平成2年 3月 園名碑完成（信越化学労働組合直江津支部より寄付）
6月 名立園創立10周年記念式典（記念誌発行、記念一泊旅行実施）
10月 市町村福祉担当者連絡会議開催（3郡福祉事務所も出席、以後毎年開催）
- 平成4年 5月 マイクロバス（29人乗り）購入
7月 車庫増築完工
- 平成5年 3月 体育館窓開閉器設置工事完工
9月 大規模修繕工事完工（国、県補助金63,778千円 上越22市町村補助金15,000千円）

- 平成6年 5月 業務用洗濯機購入
6月 社団法人全国海岸協会より海岸愛護団体として表彰される
8月 受水槽更新工事完工
- 平成7年 7月 岡田泰雄理事長退任、橋本義男理事長就任
10月 名立町町村合併40周年記念式典に於いて表彰される（奉仕活動）
12月 男子棟、女子棟二階便所改修（洋式トイレ）工事完工
- 平成8年 11月 給水用滅菌機取付工事完工
- 平成9年 3月 下水道接続工事完工
6月 冷房設備工事完工（全館室内冷房となる）
- 平成10年 4月 牛木彌左エ門園長退職、金子栄一園長就任
5月 正面玄関前アスファルト舗装改修工事完工
- 平成11年 5月 仏壇設置（信越化学労働組合直江津支部より寄付）
- 平成12年 6月 創立20周年記念（記念広報誌発行 記念一泊旅行実施）
8月 坂本堤弁護士一家追悼コンサートを名立園で行う
8月 給湯ボイラー更新工事完工（共同募金配分金1,470千円）
- 平成13年 4月 苦情解決事業、サービス評価基準及びリスクマネジメントをスタートする
9月 特別浴室機械設備他改修工事完工
- 平成14年 4月 園芸用ビニールハウス工事完工
7月 調理室乾燥床改修工事完工
8月 拡張、大規模修繕工事概算設計委託
10月 QC発表大会開催
- 平成15年 7月 橋本義男理事長退任、竹田康雄理事長就任
- 平成16年 9月 供養塔建立工事完工（名立園協力会より寄付）
- 平成17年 1月 名立町が上越市と合併 新住所：新潟県上越市名立区赤野俣926番地2
6月 名立園拡張・大規模修繕工事が国・県補助事業として採択される
9月 名立園拡張・大規模修繕工事入札
10月 創立25周年記念（記念広報誌発行）
- 平成18年 1月 床置型暖房機取替工事完工（共同募金配分金1,900千円）
3月 名立園拡張・大規模修繕・その他関連工事完工（国、県補助金101,779千円、4市補助金54,235千円）
4月 名立園拡張・大規模修繕工事竣工式及び祝賀会開催
10月 日本自転車振興会補助事業による特殊浴槽設備整備工事完工（日本自転車振興会補助3,990千円補助）
- 平成19年 5月 水道節水システムリース導入、契約
7月 竹田康雄理事長退任、室橋勇吉理事長就任
11月 非常用発電機更新工事完工
- 平成20年 4月 金子栄一園長退職、竹内隆園長就任
5月 スチームコンベクションオープン更新購入
8月 暖房ボイラー更新工事完工（共同募金配分金1,900千円）
12月 液晶テレビ10台（26型）購入
- 平成21年 7月 室橋勇吉理事長退任、橋本南夫理事長就任
12月 液晶テレビ14台（26型）購入、全居室地上デジタル放送対応テレビとなる
- 平成22年 5月 耐震診断完了
8月 耐震補強設計完了
11月 創立30周年記念（記念誌及び記念行事実施）

役員及び運営委員名簿

平成22年4月1日

役職名	氏名	就任年月	役職名	氏名	就任年月
理事長	橋本 南夫	平成15年7月	運営委員	笹崎 誠	平成21年7月
理事長職務代理	山本 隆	平成19年7月	〃	本山 克美	平成元年7月
〃	伊藤 正義	平成21年7月	〃	井上 順一	平成19年7月
理事	吉倉 静一郎	平成13年7月	〃	木村 順作	平成13年7月
〃	斎京 稔	平成3年7月	〃	細井 博一	平成17年7月
〃	田中 好一	平成13年7月	〃	新井 清司	平成19年7月
〃	中谷 清一	平成19年7月	〃	堀川 富雄	平成21年7月
〃	佐藤 章	平成21年7月	〃	山口 一夫	平成20年3月
〃	横尾 修一	平成19年7月	〃	嶋田 孝之	平成15年7月
〃	齋藤 捷彦	平成11年7月	〃	小池 尚	平成21年7月
〃	関川 正平	平成22年3月	〃	猪又 すみ	平成19年7月
〃	竹内 隆	平成20年4月	〃	飯吉 貢	平成16年3月
監事	横澤 陽子	平成21年7月	〃	河内 勝也	平成21年7月
〃	水嶋 敏昭	平成17年7月	〃	萩原 棟治	平成21年7月
運営委員	細谷 日出子	平成7年7月	〃	中嶋 寅夫	平成21年7月
〃	羽尾 勇	平成17年7月	〃	馬場 利夫	平成17年7月
〃	保坂 いよ子	平成13年7月	〃	村山 郁子	平成18年12月
〃	岩佐 貞	平成17年7月			

職員名簿

平成22年4月1日

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
園長	竹内 隆	介護員	高橋 栄子	看護係長	船木 文子
業務課長	町田 輝人	〃	秦野千江子	主任看護師	神村 雪子
支援課長	高橋 行雄	〃	斉藤 重子	給食係長	新保 綾子
支援相談係長	小林 清吾	〃	木村裕紀子	調理係長	伊藤 優子
主任支援相談員	猪俣 貴弘	〃	土肥 節子	調理員	町田和志子
支援相談員	石井 行信	〃	笠井 玲子	〃	岩本 尚子
〃	亀井 大善	〃	高橋 和代	〃	本多佳代子
会計係長	三浦 静子	〃	池亀久美子	介護員(パート)	竹内 祥子
会計係	小林 克枝	〃	若月 大輔	〃	竹内てるみ
支援課長補佐	笹川いく子	〃	竹田 圭織	〃	高津 典子
介護係長	塚田 信子	〃	高津 成美	調理員(パート)	高橋 和子
〃	池亀 潤子	〃	長池 彩香	〃	草間 信子
介護員	五十嵐美佐子	〃	斎藤 春香	介助員(パート)	安達夕美子

編集後記

名立園30周年記念誌の発刊が決まり、まず脳裏を過ったのは「30年分の写真」でした。車庫に眠っていたその写真達を作業棟の2階へ移動してみると、12畳の部屋が写真で一杯になってしまうほどの量となりました。改めて30年の歴史を感じ取ることが出来たのと同時に、この中から探すのか……と途方に暮れたことを思い出します。

記念誌の編集に携わり、30年間の様々な取り組みやそのあゆみを辿ることで、諸先輩方のたゆまぬ苦勞と努力を垣間見ることが出来ました。利用者の平均年齢も、30年前は40歳台でしたが現在は64歳を超えています。日々、高齢化・重度化が進んでいる状況ですが、その時その時の状況に合わせた利用者への支援は一筋縄ではいかなかったことと思います。その様な状況の中で、関係各位や地域住民の方々、利用者の家族の皆さまからの温かいご支援があったからこそ、様々な苦難も乗り越えて今日に至ることが出来たのだと改めて感じた次第です。

「あたたかい心のふれあいを！ 幸せといきがいの育みを！ みんなの手で！」が名立園開園当初からのスローガンです。より質の高い利用者支援を目指し、名立園のこれからの歴史を刻んでいきます。

※ 表紙の「名立園」の文字は、施設の表看板に用いられている文字をそのまま使わせていただきました。(昭和58年寄贈 沿革参照)

30th anniversary

創立三十周年記念誌

平成22年11月1日発行

○発行 社会福祉法人 久比岐福祉会
 救護施設 名立園
 名立園家族会
 〒949-1604
 新潟県上越市名立区赤野俣926番地2
 TEL 025-537-2021
 FAX 025-537-2022
 URL : <http://www.ans.co.jp/n/nadachien>
 E-mail : nadachi-en@cb.wakwak.com

○印刷 株式会社 第一印刷所

